

創刊の辞

岩手医科大学医事学研究会々長

石 渡 隆 司

医療の歴史は人類と共に古く、その濫觴は、遙かなる先史の薄明の中に遠く霞んで定かに見ることはできない。しかし、われわれがひとたびその歴史の中に医療発展の主要な契機を探ねようとすれば、そこにはつねに、それぞれの時代や社会の特性に応じた、医療と他の文化的諸領域との新たな結びつきが見出されること、また、医療はそこから、自らの文化的、社会的役割の確認や、その能力を拡充するための知恵ないしは方策を得ていたことが分る。

すでに紀元二世紀に、ラテン語による最古の本格的医学書の著者ケルススは、医学とその周辺の学問との関連について次のように記している。

「病気の原因についての探究は、確かに医療と直接には関わりをもたないような事柄も少なくはない。しかし、これらの事柄も医療を実践する者の能力を刺激することによって医療に貢献している。同様に、事物の本性についての考察も、それだけで医師をつくり上げることはないまでも、医学をより相応しいもの、より完全なものにする役割を果たしているのである」(ケルスス『医学論』序論四七節)

社会生活の諸領域が幾重にも複雑に結びついていて現代にあつては、医療がこれまでのどの時代にも増して、周辺

の諸科学との連携と、そこからの刺激や支援とを必要としていることは論をまたないであろう。

医科大学において、医学とは異なる専門領域の研究に携わるわれわれは、まさに先のケルスの言葉にあるような意味で医学に貢献することを自らの責務の一つと考え、それぞれに医学と関連する研究領域の開拓にささやかな努力を振り向けてきた。

このたび、そうした各自の研究活動を結集し、その関心や方向を確かな基盤の上に据えることを目指して、ここに「岩手医科大学医事学研究会」を発足させ、年刊誌『医事学研究』を通してその成果を世に問うことにした。

ここに発表される成果は、本誌の名称や目的に比して、目下のところいたって狭い範囲に限られている上に、必ずしも今すぐに時代や社会の要請に応えるものではないかも知れない。しかし、われわれは欧米諸国に比して人文や社会の諸科学との結びつきが著しく遅れているわが国の医学医療界に、本誌がいささかなりと貢献できる日の来ることを目指し、かつ願うものである。

本誌刊行の意義を一層大きなものとするためにも、ここに掲載された論文や翻訳等について識者の忌憚のないご批判ご叱正を心からお願いして創刊の辞とする。